

令和7年度兵庫県立佐用高等学校入学式【校長式辞】(R7.4.8)

桜をはじめとする花が咲き誇り、やわらかな春の日差しが学び舎に降り注ぐこのよき日に、ご来賓として佐用町長 庵途 典章 様、PTA会長 小松 圭 様、佐用町教育長 大森 一繁 様、同窓会長 谷本 学 様、町内4中学校長をはじめとする学校関係者の皆様にご臨席を賜り、兵庫県立佐用高等学校第八十回入学式が、盛大に挙行できますことに、深く感謝を申し上げます。

ただいま入学を許可しました、百十七名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。私たち教職員はもとより、在校生も皆さんの入学を心から嬉しく思っています。合わせて、皆さんには、今日の入学まで支えてもらったご家族、お世話になった中学校の先生など、多くの方々に対する感謝の気持ちを忘れないで欲しいと思います。

さて、本校は明治四十二年(1909年)に設立され、今年で百十六年目を迎えました。卒業生は2万4千人を超え、地元佐用町をはじめ、広く各界で活躍されています。

本校は普通科に加えて、専門学科である農業科学科と家政科があり、農業と家庭の専門学科を持つ県内唯一の高校です。本校にしかできない魅力を推進し、三つの学科が協働して、佐用高校の教育活動をより魅力ある楽しい学びを推進していきます。

本校の校訓は3つあります。一つめは、「自主独立：進取の人となろう」です。「進取」は、自分から進んで物事をすることです。もう義務教育ではありませんので、何事も自分から進んで挑戦してください。

「I can do」普通に直訳すれば、「私はできるようになる」ですが、少し読み方を変えると「I 感動」となります。今までできなかったことができるようになれば、「感動」するということです。自分から進んで挑戦して、できることが増えて感動の楽しい高校生活にしてください。佐用高校に来てよかったと心から思える高校生活を送ってください。

二つ目は「敬愛協力：善意の人となろう」です。「敬愛」とは尊敬して親しみの心を持つことです。人は一人では生きていくことができません。佐用高校で一緒に学ぶ仲間や先生方と、相手の気持ちを考えて行動してほしいと思います。

りんごが2つありました。1つを誰かにあげると、何個残りますか？誰でも計算して1つになるとわかります。しかし、りんごが2つあって、1つを困っている人などなどに人に施せば、3つになるのです。これは「自利利他」と言われます。自分の利益は他人の利益になる。他人の幸せや他人の利益の為に行動すれば、自分の幸せや自分の利益になるという意味です。

勉強がわからずに困っている人に教えてあげても、自分の知識が減ったりしません。理解がさらに深まります。部活動で上手になりたいと下手でも頑張っている人に、どうやったら上手になるかというコツや練習方法などを教えれば、自分も上達します。

教えてもらった人が、感謝の気持ちを持ってもらえれば幸せですし、また他の人に教えていけばみんなが理解できるので素晴らしいことです。

三つ目は、「創意工夫：知性の人となろう」です。「創意工夫」とは、新しい考えや方法を考え出してそれを実行するための工夫や努力をすることです。

ニーチェの言葉に「脱皮できない蛇は死ぬ」というのがあります。蛇は、一般に春

と夏と秋に1回ずつ年3回脱皮して大きくなると言われます。脱皮できないと蛇は死んでしまいます。このことばは、「向上心を失うな」とか「常に変化しよう」の思いが込められています。今の自分から、何回も脱皮して、一歩でも半歩でも前進してください。

また、中学校とは違って、勉強も難しくなったり、授業の進度も速くなります。つい入学した目標も見失うこともあるかもしれません。しかし、できるか、できないかということよりも、昨日より今日、今日より明日、焦らず少しでも向上しようという気持ちが大切です。

保護者の皆様、本日はお子様のご入学、誠におめでとうございます。お子様がこれからどのように成長していくのか、大きな期待と不安の両方を抱いておられることかと思えます。

保護者の皆様と連携して、教職員が一丸となって、お子様の成長を温かく支えてまいります。これからの3年間、本校に対するご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

新入生の皆さん一人一人が、自らの目標を大切にし、何より楽しい充実した高校生活を送られることを祈念して、式辞といたします。

令和七年四月八日

兵庫県立佐用高等学校長 小倉 裕史